

中学生のアイデアが大人をも巻き込み、地域を活性化していく3年生の取り組み



① 地域でのボランティア活動

- ・地域の祭りなどに運営ボランティアとして参加し、地域が抱える課題を実体験を通して捉える。



② 地元でのフィールドワーク

- ・公民館や市役所の協力を得てフィールドワーク先を自己開拓。地域活性化の案をより現実的なものに。



③ 市議員と語り合う

- ・市政に関わる議員にプレゼンし語り合い、主体的に社会に関わっていることを実感。



(様式)

令和6年度「ふるさとの学び特別賞」 推薦書

令和6年11月28日

学校名	鯖江市 東陽中学校	校長名	林 裕樹
-----	-----------	-----	------

1. 推薦理由

生徒たちの学びが、地域のイベントに運営ボランティアとして参加することで、地域が抱える様々な問題について経験を通して実感し、地域活性化を自分事として捉えて学びに取り組んでいる。校区の公民館とのつながりを活かして地域でのフィールドワークを行い、地域活性化プロジェクト案を練り上げている。市議員と共に考える機会を設定することによって、自分たちが主体となって社会をよりよくすることができるという自覚をもつと同時に大人と中学生がプロジェクトを共創する機運を高めた。

2. 活動内容 テーマ 「東陽地区活性化プロジェクト」

東陽中3年生95名による取り組みである。生徒たちはこれまで地域の祭りなどのイベントにボランティアとして参加し、後継者問題など地域が抱える課題を実感していた。さらに「若年層の多くが将来鯖江市に住みたいと思わない」というアンケート結果が発意となり探究学習がスタートした。

「東陽地区の良いところは？」「人が集まる場所はどういうところ？」について個人で考えることから始め、似た考えごとにグループをつくり、最終的には「人が来る道の駅」「大人気修学旅行先“東陽地区”」など全部で24個のプロジェクト班に分かれた。市役所と公民館にプロジェクトテーマを解決するために誰の協力を得ればよいのかを相談し訪問計画をたてた。「人気なお店のPR方法は？」といったリサーチクエッションを考えJAや販売店、商工会議所や保育所など15か所の訪問先を訪れ、インタビューや体験活動を行った。

生徒の発案で、市から依頼された中学生の議会見学が市議相手にプロジェクトの中間発表へと変更された。議員とプロジェクトについて語り合い、がさらにより良いものになるように修正を加えた。学校に市長、市議、市役所や公民館の職員、民生委員を招き、校内発表会で選ばれた5つのプロジェクトの発表会を行った。

発表後、公民館で地域の大人を相手に発表してほしいとの要望があり、プレゼンの映像化に取り組んでいる。今後、映像を公民館に配信して地域の方の意見を集めていく予定である。

3. 年間活動実績（12月以降の予定を含む）

- ・年間を通じて、地区のイベント運営ボランティアに参加
- 5月 個人探究「東陽地区を活性化するために必要なこと」
- 6月～8月 活性化プロジェクトのテーマ決めと班編成
- 9月 調査活動計画とアポ取り、依頼書の作成
- 10月 調査活動の実施、プロジェクト案作成 校内発表と市議会での中間発表
- 11月 プロジェクトの修正 地域の方を迎えての最終発表
- 12月～1月 プレゼンスライドの映像化と公民館への配信
- 2月～3月 公民館からの意見の集約と2年生への引継ぎ

4. 提出書類リスト

- ・新聞記事
- ・鯖江市議会報
- ・生徒が作成したプロジェクトについてのプレゼンスライド